ESA 反応性腎性貧血に対する HIF-PH 阻害薬の有用性

医療法人衆和会　長崎腎病院

○佐藤修一　津久田健太　船越　哲

【背景・目的】
当院では ESA 抵抗性疑いの症例に対し HIF-PH 阻害薬による治療を行っているが、本薬剤への反応性の傾向は結論付けられなかった。今回は ESA 反応性の症例も含めて ESA から HIF-PH 阻害薬への切り替えを行い、有用性を検討した。
【方法】
臨床研究として同意の得られた T-SAT≧20%の ESA 投与患者 150 症例に対して Roxadustat へ切り替えを行った。Hb 値の適正値を目標に調整し、2 週間毎に鉄代謝マーカー(T-SAT, TIBC, Feritin, Fe)の評価と適切な鉄補充を行った。
【結果】
Hb 値の平均値及び 95%有意区間は、16 週間に渡り管理目標値内を維持していた。現時点で重大な副作用は認められず、ESA 使用時と比較して Hb 値が安定しており、変動も少なかった。
【考察】
Hb 値の安定による頻回な用量調整が不要となったことから、ESA で安定している症例においても、HIF-PH 阻害薬に切り替える意義は大きいことが示唆された。